

屋島の昆虫

里山などの身近な環境で見られる種類が、そろって見られるのが屋島の魅力です。

- オニヤンマ** (冬・春・夏) 夏の午前中、遊歩道の上を、ゆっくりと往復して飛ぶのを見ることが出来る。
- アサギマダラ** (冬・春・秋・夏) 初秋のころ、南国へと旅をする途中の個体に出会うことができる。
- ヒラタクワガタ** (冬・春・秋・夏) 6月中旬頃から、アベマキの樹液に集まる。木の穴の中にかくれて住む。
- カブトムシ** (冬・春・秋・夏) 夏の夜、アベマキの樹液に集まる。7月下旬～8月上旬に多い。
- ヤマトタムシ** (冬・春・秋・夏) 晴れの日の日中、11:00～15:00頃に、エノキの樹の周りの上空を飛ぶ。
- モンズズメバチ** (冬・春・秋・夏) アベマキの樹液を吸う。好んで、せみをおそって食べる。秋に数が増える。
- ヒメボタル** (冬・春・秋・夏) 幼虫は陸上の湿った環境に生息し、小型のカタツムリやミミズを食べる。育つ、体長5～7mm。準絶滅危惧種。
- ナミハンミョウ** (冬・春・秋・夏) 日中、開けた空き地でアリなどの小さい昆虫をおそって食べる。

屋島の陸貝

北嶺よりも、南嶺で多くの種類が見られます。特に、湿気が多い谷のまわりで見られます。

- ニホンアカガエル** (冬・春・秋・夏) 北嶺の千間堂跡にある池では、春から初夏にかけてオタマジャクシが観察できる。
- ヨベソマイマイ** (冬・春・秋・夏) 4月～11月の雨上がりの朝、表へる道の脇にある溝の中で多く見られる。
- ショウドシマギセル** (冬・春・秋・夏) 普段は、落ち葉の下で腐葉土を食べる。雨上がりに、石の上などを這っていることがある。

屋島の爬虫類

夜行性の種類が多く、日中は岩の隙間や地中、倒木の下などに潜んでいます。

- ニホンマムシ** (冬・春・秋・夏) 毒を持つことで知られるが、攻撃性は弱く、こちらから手を出さない限り噛まれることはない。見ついたら静かにその場から離れるように。
- シマヘビ** (冬・春・秋・夏) 午前中に岩の上などで日光浴をしているのを観察することが多い。
- タワヤモリ** (冬・春・秋・夏) 人家に住むニホンヤモリとは違い、森の中で暮らす日本固有種。日本で初めて発見された場所である「多和(旧大川郡長尾町多和)」にちなんで名付けられた。全長10～14cm

屋島のほにゅう類

どの種類も基本的に夜行性なので、人目につきにくい。屋島は都会地の近くで、野生のコウモリにとっての貴重な生活や繁殖場となっています。

- タヌキ** (冬・春・秋・夏) 夜に活動し、臍病のため、見つけにくい。けもの道のわきなどに、「たぬき」(タヌキの集団トイレ)が見つかる。
- イノシシ** (冬・春・秋・夏) 屋間に親子のイノシシに出会うと危険なので用心が大切。あちこちにヒッキリ返った表層土は、イノシシが糞でエサ探しに掘り返したあと。

屋島の甲殻類

新川河口には広い干潟が残っており、カニの個体数が多い。少なくとも、13種ほどのカニの仲間が生息しています。

- ユビナガコウモリ** (冬・春・秋・夏) 屋島洞窟では4月～11月には、ねぐらにしている。冬眠個体は屋島洞窟では見られず、他の場所に移動すると考えられる。
- ハクセンシオマネキ** (冬・春・秋・夏) こぶらの幅が2cmくらいのカニ。オスのハサミは片方が白く大きいのが特徴。準絶滅危惧種。

このガイドマップについて

- 屋島には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
- 屋島には、このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、古道や登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気を付けてください。



屋島の鳥類

海、人里、森林、岩場と、多様な環境のある屋島には、四季を通じて多くの野鳥が暮らしています。

- ハヤブサ** (冬・春・秋・夏) 飛んでいる鳥も狩ることが出来る。タカの仲間。絶滅危惧種。
- トビ** (冬・春・秋・夏) ミサゴとの見分け方は体の下面が茶色く、広げた尾羽の中央部が三角形に切れ込んでいる。
- ハシブトガラス** (冬・春・秋・夏) くちばしが長く、顔が盛り上がり、尾羽の中央部が三角形に切れ込んでいる。ハシブトガラス。
- ホトトギス** (冬・春・秋・夏) 香川県の鳥。鳴き声は、「特許許可鳥」と聞こえる。他の鳥の風に顔をむく「托助」という習性がある。
- オオルリ** (冬・春・秋・夏) スズメより少し大きい。体の上面が青いのが特徴。木のてっぺんに止まり、複雑な声でさえずる。
- キビタキ** (冬・春・秋・夏) スズメよりも小さい。中腹の落葉広葉樹林や屋島寺の周辺で声がかかる。
- エナガ** (冬・春・秋・夏) 白っぽい小さい体に長い尾。秋冬にはシジュウカラやメジロなどといっしょに混群をつることが多い。
- ヒヨドリ** (冬・春・秋・夏) スズメより大きく、ハトより小さい。「ビヨ～」という鳴き声とボソボソ音が特徴。

屋島の植物

現在では大部分が広葉樹林となりましたが、昔の面影を残すマツ林も残っています。

- ウバメガシ** (冬・春・秋・夏) 海岸付近でよく見られる常緑樹。その材は硬く、備長炭の原料として知られている。
- アカマツ** (冬・春・秋・夏) 樹皮が赤く葉が柔らかいのが特徴。アカマツ林はマツタケが生えることでも有名。
- チョウジガマズミ** (冬・春・秋・夏) 薄いピンクの花を複数つける落葉低木。屋島の他、小豆島にも分布。絶滅危惧種。
- ハマビルガオ** (冬・春・秋・夏) 代表的な海岸植物。初夏に咲く淡いピンク色の花はアサガオに似た形で美しい。
- ウラシマソウ** (冬・春・秋・夏) 海岸付近の林などで見られるサイトメの仲間だが食べられない。
- アマモ** (冬・春・秋・夏) 海浜ではよく見られる。浅い海に生える種子植物。アマモ場は瀬戸内の魚を育てる場所。
- コウヤボウキ** (冬・春・秋・夏) 乾燥した日当たりの林で見られる。茎を束ねたボウキを高山で使ったこと由来。